

政策シート

2025年度	(管理番号)					担当課名
	分野	基本政策		政策		道路企画課
	03	04	01	03	01	

政策
ハード・ソフト両面の交通安全対策の推進

政策の内容

幹線道路や生活道路における交通事故の現状を踏まえ、事故危険箇所や事故多発交差点等の事故防止対策を推進します。
 通学路等の安全対策については、「通学路交通安全プログラム」に基づく、地域の意見を踏まえた通学路の整備要望への対応や、面的な安全対策を関係機関や庁内関係部署と連携して推進します。
 ビッグデータやAI、デジタルを活用した交通事故分析により、優先度を踏まえた効果的な安全対策を推進するとともに、地域や関係団体等と連携した交通安全教育を推進し、交通安全意識の高揚を図るなど、ハード・ソフト両面の対策を推進します。

生活満足度に関する指標(個別指標)

指標名	質問文	基準値 2024年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
交通安全性	あなたの暮らしている地域で、交通事故の危険を感じますか。	2.38	2.35				

※総合計画基本計画に係る市民意識調査(アンケート)の結果

現状・課題

2015年度からスタートした「ワースト1脱出作戦」により、人口10万人当たりの人身交通事故の発生件数は約4割減少しており、一定の対策効果が認められるが、依然としてワースト1の状況にあり、脱出に向けては、事故データの活用などによる効果的・効率的な対策や、交通事故を他人事としない交通安全意識の醸成など、関係機関と連携したソフト・ハード両面からの対策を強力に推進していくことが求められる。
 また、安全・安心・快適な道路環境を確保するため、道路照明灯などの道路付属物の適正な維持管理が必要である。

政策コストの状況(千円)	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
予算	4,317,555				
決算	4,848,820				

※「①事業活動(アクティビティ)」の予算・決算の合計

人工	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
正規職員	24.2				
会計年度任用職員	3.5				
暫定再任用職員(31時間勤務)	1.6				
暫定再任用職員(26時間勤務)	0.0				

※中央、浜名、天竜土木整備事務所の人工を含む

①事業活動(アクティビティ)

事業名	事業内容	2025年度 予算 (千円)
		2025年度 決算 (千円)
交通安全施設等 整備・修繕事業	・交通事故削減のため、AI分析により抽出した危険箇所や、国指定の事故危険箇所、事故多发交差点等への重点的な対策を実施する。 ・生活道路の安全確保のため、物理的デバイスによる速度抑制や抜け道利用の抑制を図る「ゾーン30プラス」を設定する。 ・通学路の安全確保のため、「通学路交通安全プログラム」により関係機関と連携して安全対策を実施する。また、小学校周辺における面的な通学路の安全対策を進める。 ・自転車及び歩行者の安全確保のため、自転車活用推進計画に基づき、自転車通行空間整備を推進する。 ・歩行空間整備などの中規模要望事業について、交通状況や地域の優先度を踏まえて実施する。	3,586,291
		4,033,167
道路照明灯LED 化更新事業	・市内の道路照明灯についてLED化を進める。 ・LED化に合わせ、支柱の更新など経年劣化への対応を進める。	578,610
		668,747
交通安全推進事 業	●交通安全思想の普及 ・交通安全教育の推進(各年代に応じた交通安全教室の実施) ・交通安全に関する普及啓発活動の推進(SNS等を活用した交通安全情報の発信、広報啓発活動、生命のメッセージ展の開催) ●子どもや高齢者の安全確保 ・生活道路、通学路における交通安全の確保(通学時間帯における広報車両による広報) ・高齢者の事故防止対策(サボカー体験会の開催、自動車学校等を活用した参加・体験型講習の実施)	139,454
		134,036
交通事故データ 活用事業	・浜松市交通事故データ活用システムに最新の交通事故情報を追加し、市内の交通事故発生状況を把握及び事故発生割合の高いエリアの抽出に活用する。 ・交通事故AI分析に必要なAIモデルのデータ更新を行い、公開している危険予測箇所マップの更新を行う。	13,200
		12,870

※予算・決算は各事業に係る経費を計上

②活動(アウトプット)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
事故多発交差点 等対策箇所数 (箇所)	浜松市交通事故削減対策部会の承認を受けて実施した対策箇所数	過年度の交通事故データから抽出した事故多発箇所について、関係機関が連携して対策の立案・実施を行っているものであり、長期成果指標である事故件数の削減に直接寄与するものである	目標値	-	20	20	20	20	20
			実績値	21	21				
			達成率	-	105%				
ゾーン30プラス設定地区数(地区)	「ゾーン30プラス」に設定された地区の累積数	面的な速度規制と物理的デバイスによる安全対策「ゾーン30プラス」の設定により、安全な生活道路が確保されたエリアが拡大することが期待されるもの	目標値	-	8	11	14	17	20
			実績値	5	9				
			達成率	-	113%				
道路照明灯LED化率(%)	道路照明灯のうちLED化された基数の割合	道路照明灯のLED化更新の進捗を示すものである	目標値	-	64	72	79	86	94
			実績値	57	72				
			達成率	-	112%				
生命のメッセージ展の実施(回)	生命のメッセージ展を開催した実施回数(巡回展示は1カウントとする。)	交通事故犠牲者の等身大パネルに遺族のメッセージを添えた展示を行い、事故を起こさない、遭わない意識の向上につなげる	目標値	-	2	2	2	2	2
			実績値	2	1				
			達成率	-	50%				

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

③短期成果(アウトカム)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
対策により事故の削減された箇所数(箇所)	対策を実施した事故多発交差点のうち、浜松市交通事故削減対策部会において「卒業」と判定された箇所数	対策実施箇所の追跡調査により、3割以上の事故削減をもって「卒業」とされるものであり、指標の向上により対策の効果や妥当性が評価できるもの	目標値	-	20	20	20	20	20
			実績値	18	22				
			達成率	-	110%				
市道における人身交通事故件数(件)	市内で発生した人身交通事故のうち、市道上で発生したものの件数	物理的デバイスの設置など生活道路の安全対策により、市道で発生する事故が削減されるため、長期成果指標である事故件数の削減に直接寄与するもの	目標値	-	2,610	2,520	2,430	2,350	2,270
			実績値	2,709	2,711				
			達成率	-	96%				
夜間の人身交通事故件数(件)	浜松市交通事故統計における「夜間事故」の件数(夜間:日没～日の出の間)	LED照明灯により夜間の視認性が向上し、夜間事故が削減されるため、長期成果指標である事故件数の削減に直接寄与するもの	目標値	-	1,100	1,030	970	910	850
			実績値	1,167	1,111				
			達成率	-	99%				
交通安全意識の向上率(%)	「広聴モニターアンケート」を活用 ※毎年度算出	アンケート調査結果に基づいた効果的な交通安全教育の実施により、市民の交通安全意識を高め、もって人身交通事故件数の削減につながることを見込んでいる	目標値	-	65	70	75	80	85
			実績値	-	50				
			達成率	-	77%				

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

④長期成果(アウトカム)指標

指標名	基本計画 指標	指標の定義		2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年	目標値 2034 年
人身交通事故件数(件)	○	第11次浜松市交通安全計画(令和3年度～令和7年度)の指標に準拠となるが、令和8年度以降は新たな計画の指標に準拠	実績値	4,795	4,799					2,500
			達成率	52%	52%					
			実績値							
			達成率							
			実績値							
			達成率							

※達成率は2034年度の目標値に対する実績値から算出する。

⑤目的:10年後(2034年)の理想の姿

- ・強靱で安定した道路、橋りょう、河川、上下水道等の社会基盤施設が市民生活を支えている。
- ・幹線道路や主要な生活道路の整備が着実に実施され、経済活動や市民生活が支障なく円滑に行われている。

【2025年度の評価】

「①事業活動(アクティビティ)」の実施内容と事業改善(2026年度記載)

事業名	実施内容	事業改善の内容や今後の方向性
交通安全施設等整備・修繕事業	・交通事故削減のため、AI分析により抽出した危険箇所(25箇所)や、国指定の事故危険箇所、事故多発交差点等(21箇所)への重点的な対策を実施した。 ・生活道路の安全確保のため、物理的デバイスによる速度抑制や抜け道利用の抑制を図る「ゾーン30プラス」を4地区設定した。 ・通学路の安全確保のため、「通学路交通安全プログラム」により関係機関と連携して安全対策を実施した。 ・人身交通事件数は、2024年の4,795件に対し、2025年は4件増の4,799件となったが、死傷者数は9人と過去最少となった。	ゾーン30エリアを市内全体に増大すると共にゾーン30プラスへの強化を推す。また、ETC2.0のプロブデータを活用し、より効果的な対策の検討・実施をする。引き続き、交通事故削減効果の高い対策や通学路等の生活道路の安全対策を推進する。
道路照明灯LED化更新事業	・市内の道路照明灯について、1,785基のLED化を進めた。	引き続き、消費電力の削減に伴うトータルコストの縮減やCO2排出ガス削減等の環境負荷の低減を図る。
交通安全推進事業	・警察、交通安全協会などと連携して、各年代に応じた交通安全教室を1,905回実施した。 ・SNS等を活用した交通安全情報の発信や広報啓発活動、生命のメッセージ展の開催など、年間を通じて交通安全に関する普及啓発に努めた。 ・交通安全運動期間を中心に、通学時間帯において生活道路、通学路での広報車両による広報を112回実施した。 ・高齢者の事故防止につながる事業としてサボカー体験会を7回実施した。 ・人身交通事件数は、2024年の4,795件に対し、2025年は4件増の4,799件となったが、死傷者数は9人と過去最少となった。	直近の事故の傾向を踏まえ、事故件数の多い地区への直接的な広報など、啓発活動を強化すると共に、市内の事故特性を把握・分析し、より効果的な対策の検討・実施をする。特に、自分事として捉えやすい体験型交通安全教室の拡充を図る。
交通事故データ活用事業	・浜松市交通事故データ活用システムに最新の交通事故情報を追加し、市内の交通事故発生状況を把握及び事故発生割合の高いエリアの抽出に活用した。 ・交通事故AI分析に必要なAIモデルのデータ更新を行い、公開している危険予測箇所マップの更新(2026.6時点の閲覧回数約95万回)を行った。	事故データに加え、ETC2.0のプロブデータ等を活用し、事故分析の精度を高め、対策に活用する。引き続き、AI分析による危険予測箇所を公開し、啓発に活用していく。

「②活動(アウトプット)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	要
指標「生命のメッセージ展の実施(回)」について、生命のメッセージ展事業の活動実績をもって行動変容につながる成果を図ることが難しいと判断し、指標を「地区連合会への交通安全情報の発信」に指標を見直した。 近年、人身事故件数の多い地区を対象に、交通安全の情報発信や地域と協働して事故対策を検討・実施することで、地域住民の交通安全意識の行動変容につなげる。	

「③短期成果(アウトカム)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	否

2025年度の政策の評価と2026年度以降の取組の方向性(2026年度記載)

・計画していた事業を概ね実施することができた。 ・「事故多発交差点等対策箇所数」、「ゾーン30プラス設定地区数」、「道路照明灯LED化率」は、目標値を上回る実績値となっているが、人身交通事故件数が前年を上回る結果となり、危機的な状況となっている。引き続き、ハード・ソフト両面から強力に交通安全対策を推進していく。
--